

# 卒業生・修了生から

## 卒業生

### エッセイのようなもの

機械電子工学科卒業生  
合田 俊哉



「お前変わったな」そんな一言を何度聞いただろう。小学校、中学時代の友人のほとんどが僕にそう投げかけるのだ。確かに高専に入ってからサブカルチャーへのめりこみ、昔の趣味趣向と比較すれば隔絶したものとなっているだろう。五年前、高専への入学が決まり新たな学校生活に心躍らせていた。まさしく純真無垢だったあの頃の僕はまさか星空凛ちゃんのコスプレをすることになるなど想像だにできなかっただろう。

高専への願書提出を決めたのが中学三年生の冬の最後で、今思えば高専の特異性に惹かれたのだと思う。誇張な表現なく真面目な優等生をしていたあの頃のためには自分を変えたいと強く思った末の結論だった。

高専に入ってから「(オタクだらけじゃねえか)」とクラスメイトに驚愕した。いろいろぶっ飛んだ教員にも。クラスメイトと話を合わせるために踏み込んだ結果自分が取り込まれていた。とりあえずくだが可愛すぎるのがいけないと思う。

一、二年生のころは思い出したくもないはずか死ぬ。三年の頃は特に記憶にない。四、五年になってからはどれだけ普通の大学生を羨んだだろう。でも楽しかった高専に来てよかった。後悔なんてない！なお留年しない場合に限る。

### It was a dark and stormy night.

電子システム工学科卒業生  
内海 太禄



本を読む、というのが難しいことだとずっと思っているが、それを実感したのは本当に最近のことだ。高専での生活が残り少なくなり、焦り、できるだけ本を読もうとはしたものの、どうにも体がおぼえない。読み終わった後も身に付いた気がしない。

本を読むことについて「行間を読む」という表現を何回か耳にしたが、それを実感したことは一度もない。経験を積めばそういうことができるようになるのだろうか。そういえば数式に色が付いて見える人もいますので、そんな経験も僕にはないのだが、読書も数学も

全くやってこなかった訳ではないから、やはり量や経験や努力が足りていないのだろう。

この図書館の思い出について書くと、本を読むようになったきっかけは2年生の時の『グレートギャツビー』だった。これまではその本の存在を知ったことばかりに気をとられていたが、それを置いてあったこの図書館も、本の存在を知ることと同じくらい重要だったんだと、今では思う。どこかよその図書館へ行くといつも、ここを基準にして品揃えを見ていることに気づく。この場所に通えなくなるのは寂しい。それにしても、本を読む事に限らず何かを進めていくにしたがって、自分ができていないことが増えていくような気がする。しかし、とにかくやらなければならない。

図書館の井内さん、高島さん、藤田さん、5年間いろいろとお世話になりました。おかげでいろいろな本に出会えました。ありがとうございました。

## 修了生

### 図書館の楽しみ方

創造工学専攻修了生  
富田 最



私は専攻科1年生の時から2年間アルバイトをしてきました。私が本科生の時には、テスト期間中に勉強をするためや、DVD鑑賞のために図書館を利用していました。実際のところ、そのような学生が多いのではないかと思います。アルバイトという立場になり、館内を隅から隅まで見るようになると、今まで知らなかった分野の本に興味を持ったり、勉強に役立つ本に多く出会えたりと、図書館は(失礼かもしれませんが)意外と楽しく有意義な時間を過ごせる場所である

と感じました。

高専の図書館には工学系の専門書はもちろん、雑誌や旅行ガイド、料理本まであります。研究論文の参考文献として専門書を読むのもよし。進学や就職で一人暮らしを始める予定の人は料理本を読んで勉強するのもよし。人それぞれの楽しみ方ができると思いますので、ぜひ一度館内をゆっくり見て回ることをお勧めします。新たな発見があるかもしれません。

最後になりましたが、私は図書館に似つかわしくないヤンキーみたいな見た目、利用する学生には威圧感を与えていたかもしれませんが(本人はそんなつもりじゃありません)、仕事はまじめにしていたのでお許しください。おそらく今のアルバイトの学生は爽やかボーイだと思いますので、ぜひ気軽に図書館を利用してください。

## ムダ知識の楽しみ

電子情報通信工学専攻修生  
梶川 治輝



我が校の図書館は楽しみにあふれている。私は自分に必要であろう工学の知識以外にも、不必要に見える知識も図書館にある本から学んだ。この文章を書いている時点では就職先も決まっており、必要になる知識の分野は分かっているけれど、それでも関係ない知識をむさぼるのが好きだ。ネズミの寿命は約3年、ゾウの寿命は約80年なのに人生の体感時間は同じだとか、ロボットを改良し続けると生物の体の仕組みに似てく

る不思議とか、ハンニバルがアルプス山脈を越えるに至った経緯だとか。この先の人生で役に立つかどうかは未知数だけど、知ると楽しい考えがひとつ増える。先ほどのゾウとネズミの話を知ったときは、じゃあドラキュラになったとしても不老不死じゃなくて寿命が人間より長いだけで、体感する人生の時間感覚は人間とそう変わらないじゃないか、ドラキュラといえどもたいそうなものではないかもな、という妄想を膨らませて一人でニヤニヤ笑っていた。そんな妄想をしたがためだけに今日もローマの歴史の本と、頭がおかしくなったロックバンドのCDを借りて帰る。そんな楽しみを提供してくれたのは我が校の図書館だけであった。この場をお借りしてお礼申し上げます。長い間お世話になりました。本当にありがとうございました。

## 図書館貸出冊数

平成26年4月～平成27年2月

〈総合〉

種類	高松	詫間	合計
図書	7,757	7,984	15,741
雑誌	122	495	617
C D	1,905	1,440	3,345
合計	9,784	9,919	19,703



〈学科別〉 (対象：図書とCD)

